

創世記 23:1-20 死において神に信頼する

今日は創世記 23 章全体を見ていきます。アブラハムの妻サラの死についての箇所です。死というものは何度も考えたくないことではありますが、神の民にとってさえ、キリストが再臨されない限り必ず来るものです。愛する人の死に対する私たちの反応は、この世やキリストを知らない人のそれとは違ったものであるべきです。愛する妻の死に対するアブラハムの反応を見ると、愛する人の死においても神とも関係がもたらす違いを見ることができます。まずはこの物語の始まりを 1, 2 節で見えていきましょう。「1.サラの生涯、サラが生きた年数は百二十七年であった。2.サラはカナンの地のキルヤテ・アルバ、すなわちヘブロンで死んだ。アブラハムは来て、サラのために悼み悲しみ、泣いた。」 祈りましょう。

最初の 2 節でまず、死についてアブラハムが経験したことは、今日私たちが経験することと同じであるということを目指したいと思います。私たちが愛し大切に思う人々を失うのと同じように、彼も妻を失いました。サラとアブラハムはその結婚生活の中で間違った選択をすることもあったかもしれませんが、結婚生活における愛と献身をその文化的背景に従って示し、アブラハムがサラを愛し大切にすることは明らかでした。人生で確実なものの一つが死です。聖書はこれを教えています。ローマ人への手紙 5:12 に「こういうわけで、ちょうど一人の人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして、すべての人が罪を犯したので、死がすべての人に広がったのと同様に」とあります。人間が死を経験するために創造されたわけでは決してないことは聖書において明らかですが、罪が死をもたらしました。それは肉体的な死だけでなく、罪に対する神の罰としての永遠の霊的な死をもたらしました。ヨハネの黙示録 21:8 は「しかし、臆病な者、不信仰な者、忌まわしい者、人を殺す者、淫らなことを行う者、魔術を行う者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者たちが受ける分は、火と硫黄の燃える池の中にある。これが第二の死である。」と言っています。聖書は、罪人が最終的に行く場所を地獄と呼び、今読んだ箇所では、そこが苦痛と罰の場所であることを明らかにしています。地獄が存在すると考える人はいるかもしれませんが、黙示録で読んだことに照らして、自分はそのような人間ではないと思うかも知れません。聖書は私たちの心の態度や思いが行いと同様、黙示録に述べられているような殺人者、不道德者、偶像崇拜者、嘘つきと同じ部類に属することを明らかにしています。例えばヨハネの手紙第一 3:15 は「兄弟を憎む者はみな、人殺しです。あなたがたが知っているように、だれでも人を殺す者に、永遠のいのちがとどまることはありません。」と言っています。ローマ人への手紙 5:12 で全てが罪を犯したと言っているのは、私たち全員が罪を犯したという意味です。

感謝な事は、アブラハムの人生についての全てが、私たち皆が生きることができる別の人生への道を示してくれています。神のために生きる信仰生活は神の祝福と永遠の命をもたらします。そしてその永遠の命は、神が私たちの信仰を義とみなしてくださる、つまり罪がないとみなしてくださるから与えられるのです。アブラハムの生涯において重要となる箇所に戻ると、創世記 15:6 に「アブラムは主を信じた。それで、それが彼の義と認められた。」とあります。アブラハムは自分が何を、また誰を信じているのか完全に分かっていた訳ではありませんでした。ですが今私たちは、私たちの罪の代価を払うため、私たちの代わりに十字架で死んでくださった、アブラハムの子孫であるイエス・キリストについて、信仰によって振り返ることができます。ローマ人への手紙 6:23 に「罪の報酬は死です。しかし神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」とあるのはこのためです。自分が神に従うことができず、神に栄光を帰することができない罪人であると理解し、イエス・キリストに信頼し、自分が負うべき罪の罰を受けられた方として受け入れるとき、私たちは義と認められます。神は私たちの善ではなく、キリストの善ゆえに私たちの罪を問われません。ローマ人への手紙 4:5 では「働きがない人であっても、不敬虔な者を義と認める方を信じる人には、その信仰が義と認められます。」とあります。今日の説教で語られる他の全ての事は、イエス・キリストを信じる者たちが死にどのように反応するかについてののみですから、この真理から始めることが大切です。イエス・キリストなく

して、この反応に同じ慰めと希望を見ることはできません。それは、アブラハムや全ての神に属する人たちの反応の基盤である神との関係が欠けているからです。

私たちと同様にアブラハムも死を経験したことを見るとともに、愛する人の死を経験するときにも私たちと同様、同じ悲しみが当然あったことを理解する必要があります。誰もがそうであるように、アブラハムもサラのために嘆き悲しんだとあります。ですが、その自然な反応の直後、それどころかそのごく自然な悲しみに向き合っている最中から、神との関係がもたらす最初の違いを見ることができます。アブラハムは人生と同じくサラの死に対しても信仰を持って向き合いました。3-9節を読みましょう。「3.アブラハムは、その亡き人のそばから立ち上がり、ヒッタイト人たちに話した。4.「私は、あなたがたのところに在住している寄留者ですが、あなたがたのところで私有の墓地を私に譲っていただきたい。そうすれば、死んだ者を私のところから移して、葬ることができます。」5.ヒッタイト人たちはアブラハムに答えた。6.「ご主人、私たちの言うことをお聞き入れください。あなたは、私たちの間にあって神のつかさです。私たちの最上の墓地に、亡くなった方を葬ってください。私たちの中にはだれ一人、亡くなった方を葬る墓地をあなたに差し出さない者はありません。」7.そこで、アブラハムは立って、その土地の人々、ヒッタイト人に礼をして、8.彼らに告げた。「死んだ者を私のところから移して葬ることが、あなたがたの心にかなうのであれば、私の言うことをお聞き入れくださり、ツォハルの子エフロンに頼んでいただきたいのです。9.彼の畑地の端にある、彼の所有のマクペラの洞穴を譲っていただけるとは幸いです。十分な価の銀と引き換えに、あなたがたの間での私の所有の墓地として、譲っていただけるとは幸いです。」アブラハムが墓地を入手しようとしたことを語るにより、妻の死と言う状況の中にあっても神がアブラハムの信仰を強められるのを見ます。墓地を入手するという、約束された土地へのアブラハムのコミットメントに、その信仰を見ます。彼にとってその場所は家族がいつでも戻ることが出来る、常にある場所とするつもりでした。当時でも先祖の墓は家族にとってその名誉と永続性を示す重要なものでした。西洋では同じような重みを置きませんが、このような考え方はここ日本にも見られます。アブラハムはそこに移民として住んでおり、井戸以外に所有する土地もありませんでした。ですが、妻を葬ることを望んだその土地をゆくゆくは家族で所有し、そこに永久に住むという信仰を彼は示していました。ですからアブラハムの信仰の中心は約束の地という祝福です。ただそこにもアブラハムが他の人々に祝福となるという、神がアブラハムと交わされた契約の別の側面を見ることができます。その土地のヒッタイト人にとって、アブラハムは喜ばしい存在だったため、彼らはアブラハムを大いに尊敬し、彼が望む場所は与えようとしていました。

神の約束に信頼し、土地の選択についても申し分ない中でさえ、アブラハムはその全てを成してくださったのは神ご自身であることを認める者の謙遜さを見せています。広大な土地や良い土地ではなく、9節で彼はエフロンの畑地の端にある洞穴のみを求めています。この洞穴のみを求めることで、アブラハムはエフロンが自身の土地を所有し続け、その真ん中にアブラハムが大きな畑を所有することによってエフロンの土地が分断されてしまわないようにしています。アブラハムは意図的にエフロンの土地、彼が子孫に残す土地への侵入を制限しています。また、先々所有者について疑問が持ち上がらないよう、証人たちの前で土地の価格を全額支払うことを非常に明確にしています。信仰によって、アブラハムがこの墓地を今後何世代にも渡って所有する計画であったことを覚えておきましょう。洞穴の確かな所有者となり、最終的には彼の子孫がその周辺の土地を全て所有することを望んだわけです。アブラハムはこの時点でそれがどのように実現するのか、また実現するまでに500年近くかかることも知りませんでした。神がそう約束されたことを知っていましたし、その約束を信じていました。

では、サラが亡くなった時にアブラハムが神への信仰を示し続けたことがなぜ重要なのでしょうか。それは、キリストへの信仰が死についてこの世とは異なった見方を与えてくれるからです。このことについてテサロニケ第一4:13-17はこのように語っています。「13.眠っている人たちについては、兄弟たち、あなたがたに知らずにいてほしくありません。あなたがたが、望みの

ない他の人々のように悲しまないためです。14.イエスが死んで復活された、と私たちが信じているなら、神はまた同じように、イエスにあって眠った人たちを、イエスとともに連れて来られるはずで、15.私たちは主のことばによって、あなたがたに伝えます。生きている私たちは、主の来臨まで残っているなら、眠った人たちより先になることは決してありません。16.すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。そして、キリストにある死者がよみがえり、17.それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。」イエス・キリストへの信仰を通して神との関係を持つ者にとって、死とは聖霊を通して使徒パウロが眠りと呼んだ一時的なものです。私たちの愛する人が眠りについたのと変わりなく、朝目覚めればまた見ることができます。実際、私たちの希望は、愛する人たちが既に父なる神と共におり、この世に在るよりも完ぺきな者として存在しているということです。パウロはコリント人への手紙第二5：8でも自信を持って「私たちは心強いのですが、むしろ肉体を離れて、主のみもとに住むほうがよいと思っています。」と語っています。この肉体を離れること、つまり死ぬことは、主の御前にいることだというのは疑いありません。

ローマカトリックの神学には多くの深刻な問題がありますが、聖書の真実の教義からの大きな逸脱の一つが煉獄に関する教えです。これはキリストを知る者にさえ、過去の罪の代価を払い、天国に入る備えのための中間の状態があるという教えです。このようなことは聖書のどこにも見つけることはできません。私たちの罪は十字架により贖われました。イエスの死は私たち全ての者の罪の代価を完全に贖うのに十分であり、キリストを知る人たちが永遠の罰を受ける必要はありません。私たちは死のすぐ後に永遠に神の臨在に入ります。そしてテサロニケ人への手紙第一の約束は、私たちが既に永遠の世に召されていたとしても、キリストが再び来られるときに与えられる完全な体をもって、いつかよみがえることを教えてくれます。これが希望です。このことは、私たちの愛する人がキリストを知っていて、私たち自身もアブラハムとサラが神を知っていたようにキリストを知っているのであれば、彼らがどのような状態にあり、永遠の再開を確信できることを意味します。ですから、テサロニケ人への手紙第一にパウロが書いたように、信仰は違いをもたらします。私たちも悲しみはしますが、希望のない人と同じ悲しみを味わうことはありません。

ですが、アブラハムがどのように死と向き合ったかについて第二の側面があります。サラの死に敬意を示す中でアブラハムが最も優先したことは神をほめたたえることであつたので、死にどのように向き合うかも含めて、アブラハムの信仰は彼の人生のあらゆる面において重要でした。残りの10-20節を読みましょう。「10.エフロンはヒッタイト人たちの間に座っていた。ヒッタイト人のエフロンは、その町の門に入るヒッタイト人たち全員が聞いているところで、アブラハムに答えた。11.「いいえ、ご主人。どうか、私の言うことをお聞き入れください。あの畑地をあなたに差し上げます。そこにある洞穴も差し上げます。私の民の者たちの前で、それをあなたに差し上げます。亡くなった方を葬ってください。」12.アブラハムは、その土地の人々に礼をし、13.その土地の人々の聞いているところで、エフロンに告げた。「もしあなたが許して下さるなら、私の言うことをお聞き入れください。畑地の価の銀をお支払いします。どうか私から受け取ってください。そうすれば、死んだ者をそこに葬ることができます。」14.エフロンはアブラハムに答えた。15.「では、ご主人、私の言うことをお聞き入れください。銀四百シェケルの土地、それなら、私とあなたの間では、何ほどのこともないでしょう。どうぞ、亡くなった方を葬ってください。」16.アブラハムはエフロンの申し出を聞き入れた。アブラハムはエフロンに、彼がヒッタイト人たちの聞いているところにつけた価の銀を支払った。それは商人の間で通用する銀四百シェケルであつた。17.こうして、マムレに面するマクペラにあるエフロンの畑地、すなわち、その畑と、畑地にある洞穴と、畑地の周りの境界線内にあるすべての木は、18.その町の門に入るすべてのヒッタイト人たちの目の前で、アブラハムの所有となつた。19.その後アブラハムは、マムレに面するマクペラの畑地の洞穴に、妻サラを葬った。マムレはヘブロンにあり、カナンの地にある。20.こうして、この畑地とその中にある洞穴は、ヒッタイト人たちの手から離れて、私有の

墓地としてアブラハムの所有となった。」話が進むにつれて、アブラハムは特定の人や部族のおかげで成功したとは決して思わなかったので、土地をもらうのではなく代価を支払いたいと明確に伝えます。全ては神の恵みによってもたらされたのだと誰の目にも明らかにすることが彼の望みでした。ですから私たちがこの物語を読むとき、アブラハムがそのようにしたことで、洞穴を差し出した部族ではなく、神がその栄光をお受けになります。また土地をただ手に入れるのではなく、その代価を全額支払うことで、アブラハムはこの状況を利用したりエフロンの善意につけ入ったりしませんでした。ここにも大変な時であっても神を敬う彼の姿を見ることができます。他のヒッタイト人がその場に証人として集い、取引を見守ることで、この取引が正式なものであることが保証されます。

最後に、愛する人の死にどのように敬意をしめすかという点があります。必ずしも間違いではないけれど、神を敬うものではないということがあります。あまり好んで語られることはありませんが、どのような文化に属していても、文化的また伝統的な物事の中には人を敬うけれども神を指し示したり敬うことはないものが多く存在します。ここ日本の文化の一部である偽りの宗教的慣習にも、真実の神から離れさせるようなものさえあります。常に真実を語るためには、救われているかどうかに関わらず亡くなられた方にどのように敬意を払うべきか注意しなくてはなりません。もちろん愛をこめて真実を語ることもできます。神の御言葉によれば、キリストなしに人は天国に入ることができませんが、亡くなられた愛する人は残された人の誰もがイエスについて知ってもらいたいと思っているであろうことを伝える方が良いでしょう。ここ日本における葬儀において友人や家族に敬意を払いたいと思うのですが、その中の慣習のいくつかは仏教の儀式における偽りの神の崇拝に直接つながるものです。私たちは家族よりも神を敬わなくてはなりません。どの部分が本質的には宗教的で、どの部分が単に文化的なものかを祈りを持って考慮してください。けれど、私たちの文化的伝統がどのようなものであれ、生きるも死ぬも主に在る私たちの願いは、愛する人の死においてもイエス・キリストの栄誉を示すことです。

アブラハムはそのことを知っていました。信仰ゆえに悲しみの中にあっても力を得、その状況を利用するのではなく神をほめたたえることができたのです。生きることにだけでなく死ぬことにおいても、神に信頼し希望を見出すことによって、私たちもアブラハムのように信仰によって生きることができます。祈りましょう。

Genesis 23:1-20 Trusting God in Death

Today are going to be looking at the entire chapter of Genesis 23. This passage relates to us the death of Abraham's wife Sarah. Death is something that many times we don't want to think about, but even for those who are God's people, death will come unless Christ returns first. Our response to the death of loved ones should not look the same as the world and those who do not know Christ. As we look at Abraham's response to the death of his beloved wife, we can see the difference that a relationship with God makes even in the death of a loved one. Let's read verses 1-2 to set the stage for the events in this chapter today. **23 Sarah lived 127 years; these were the years of the life of Sarah. ²And Sarah died at Kiriath-arba (that is, Hebron) in the land of Canaan, and Abraham went in to mourn for Sarah and to weep for her.** Let's pray.

After reading these first two verses, I want to point out that **Abraham's experience with death is the same as our experience today.** He faced the loss of his wife just as we face the loss of people we love and care for today. And, while Sarah and Abraham may have made some bad choices in their marriage, it was still clear that in the way that their culture showed love and commitment in marriage, he had loved and cared for Sarah. One thing that is absolutely certain in life is death. The Bible teaches this. In [Romans 5:12](#) we are told, **Therefore, just as sin came into the world through one man, and death through sin, and so death spread to all men because all sinned.** The Bible is clear that humans were never created for the experience of death, but sin brought death. And it did not only bring physical death, there is a spiritual death sentence of eternal death that is punishment from God for that sin. [Revelation 21:8](#) says **8 But as for the cowardly, the faithless, the detestable, as for murderers, the sexually immoral, sorcerers, idolaters, and all liars, their portion will be in the lake that burns with fire and sulfur, which is the second death.** The Bible calls this ultimate destination for sinners hell, and the description that we just read makes it clear that this is a place of torment and punishment. Some people may be thinking that hell exists, but even from what we read in Revelation, I don't fit that description. The Bible makes clear that our heart attitude and thoughts as much as our actions put us in the same category with the murderers, immoral, idolaters and liars listed in Revelation. For example [1John 3:15](#) says, **Everyone who hates his brother is a murderer, and you know that no murderer has eternal life abiding in him.** When Romans 5:12 says that all sinned, it means all of us have sinned!

Thankfully, everything about Abraham's life points us to a different story for our lives that is available to everyone of us. The life of faith lived for God will bring God's blessing and eternal life. And that eternal life is granted because God counts our faith as righteousness, in other words, being without sin. Going back to the key verse of Abraham's life, [Genesis 15:6](#) **And he [Abraham] believed the LORD, and he counted it to him as righteousness.** Abraham did not have a full picture of what or who he was believing in, but today we look back in faith at Abraham's descendant, Jesus Christ, who died in our place on the cross to pay for our sin. That is why [Romans 6:23](#) can say, **23 For the wages of sin is death, but the free gift of God is eternal life in Christ Jesus our Lord.** When we come to understand that we are sinners who have failed to obey and glorify God, and put our faith in Jesus Christ, accepting him as the one took the punishment for our sin, then we are justified. God declares us not guilty of our sin, not based on our goodness, but on Christ's goodness. [Romans 4:5](#) tells us **And to the one who does not work but believes in him who justifies the ungodly, his faith is counted as**

righteousness. It is important to start with this truth, because everything else I say in this sermon is only about how believers in Jesus Christ respond to death. The one without Jesus Christ will not find the same comfort and hope in this response, because you do not have the relationship with God that the response of Abraham and all God's people is based on.

Along with seeing that Abraham experienced death as all of us do, we need to be clear in our understanding that there was naturally the same grief that all of us experience when dealing with the death of a loved one. We are told that as any of us would, he mourned and wept for her. But then immediately after this natural response and undoubtedly while still dealing with this natural grief, we see the first difference that his relationship with God made. **Abraham faced Sarah's death as he did life- with faith.** Let's read verses 3-9. ³ **And Abraham rose up from before his dead and said to the Hittites,** ^[a] ⁴ **"I am a sojourner and foreigner among you; give me property among you for a burying place, that I may bury my dead out of my sight."** // ⁵ **The Hittites answered Abraham,** ⁶ **"Hear us, my lord; you are a prince of God^[b] among us. Bury your dead in the choicest of our tombs. None of us will withhold from you his tomb to hinder you from burying your dead."** // ⁷ **Abraham rose and bowed to the Hittites, the people of the land.** ⁸ **And he said to them, "If you are willing that I should bury my dead out of my sight, hear me and entreat for me Ephron the son of Zohar,** ⁹ **that he may give me the cave of Machpelah, which he owns; it is at the end of his field. For the full price let him give it to me in your presence as property for a burying place."**

By telling us about Abraham getting a burial plot, God is reinforcing Abraham's faith even in this time of his wife's death. We see his faith in the fact that by Abraham getting a burial plot, it shows his commitment to the land promised to him. He intends it to be a permanent spot that his family can always return to in the future and that shows permanency. Even in that day, the ancestral grave was important in that it indicated honor and continuity in the family. While in the west, it does not carry the same weight, this attitude is definitely still evident in country like here in Japan. Remember that Abraham was currently living as an immigrant in the land, with no true owned land really other than a well. But he was demonstrating faith that his family would ultimately own and permanently live on this land that he wanted to bury his wife in. So the focus of Abraham's faith is the promised blessing of land. But even here, we see other aspects of God's Covenant with Abraham in his being a blessing to others. He had been a such a blessing to the Hittites in the area he was living in that they greatly respected him and wanted to give him whatever piece of land he wanted.

Even when acting on faith in God's promise and being honored with his choice of land, Abraham still shows the humility of a person who realizes that God is the one who did all this on his behalf. Instead of asking for a large piece of land or a choice piece of property, in verse 9, he says he just wants a cave **at the end of his [Ephron's] field.** By asking only for this cave and nothing else, Abraham is ensuring that Ephron would still fully own his land and not have it broken up by Abraham owning a large field in the middle of it. Abraham would be intentionally limiting his intrusion into Ephron's land and his descendants inheritance. He also makes sure to be very clear that he wants to pay full price in front of witnesses so there would not be any question about ownership in the future. Remember that by faith, he is planning that this burial spot be with his family for generations to come. He wanted to make sure that starting off he would be the clear

owner, and eventually his descendants would own everything around it. Abraham did not know how that would happen or that it would take almost 500 more years to get to that point, but he knew that God had promised, and he believed that promise.

So, why is it important that Abraham continued to demonstrate his faith in God when Sarah died? It shows that our faith in Christ gives us a different outlook on death. The key passage that speaks directly to this is [1 Thessalonians 4:13-17](#) **13But we do not want you to be uninformed, brothers, about those who are asleep, that you may not grieve as others do who have no hope. 14For since we believe that Jesus died and rose again, even so, through Jesus, God will bring with him those who have fallen asleep. 15For this we declare to you by a word from the Lord,d that we who are alive, who are left until the coming of the Lord, will not precede those who have fallen asleep. 16For the Lord himself will descend from heaven with a cry of command, with the voice of an archangel, and with the sound of the trumpet of God. And the dead in Christ will rise first. 17Then we who are alive, who are left, will be caught up together with them in the clouds to meet the Lord in the air, and so we will always be with the Lord.** For those who have a relationship with God through faith in Jesus Christ, death is a temporary experience that the apostle Paul through the Holy Spirit rightly calls sleep. It is no different than if our loved one had fallen asleep and we will see them when they wake up in the morning. In fact, the hope that we have is that our loved ones are currently experiencing a more perfect existence than we have in this world because they are already with our Father, God. Paul could also confidently say in [2 Corinthians 5:8](#), **Yes, we are of good courage, and we would rather be away from the body and at home with the Lord.** There was no doubt, to leave this physical body, in other words, to die, was to be in the presence of the Lord.

There are many serious problems with Roman Catholic theology, and one of serious deviations from true Biblical doctrine is their teaching on Purgatory. They teach that there is an intermediate state for even those who know Christ where we go to pay for past sins and prepare us for Heaven. That is nowhere in Scripture. Our sins are paid for on the cross. Jesus' death was totally and completely sufficient to completely pay the price for all of our sin, and there is no need for any punishment in eternity for those who know Christ. Our immediate state after death is in the presence of God for eternity. And the promise of [1Thessalonians](#) tells us that one day even in an eternal state, we will be restored to our then perfected bodies which are raised when Christ returns. This is hope! This means that if our loved ones know Christ and we know Christ as Abraham and Sarah knew God before Christ then we are certain of their present condition and of our reuniting in eternity. So faith makes a difference as Paul began the passage in [1 Thessalonians](#). We still grieve, but not as those who have no hope!

There is a second aspect of how Abraham faced death here, though. Abraham's faith was important in every aspect of his life, including how he faced death because **in honoring Sarah's death, Abraham's highest priority was honoring their God.** Let's read the rest of story in verses 10-20. **¹⁰Now Ephron was sitting among the Hittites, and Ephron the Hittite answered Abraham in the hearing of the Hittites, of all who went in at the gate of his city,¹¹ "No, my lord, hear me: I give you the field, and I give you the cave that is in it. In the sight of the sons of my people I give it to you. Bury your dead." // ¹²Then Abraham bowed down before the people of the land. ¹³And he said to Ephron in the hearing of the people of the land, "But if you will, hear me: I give the price**

of the field. Accept it from me, that I may bury my dead there.” // ¹⁴ Ephron answered Abraham, ¹⁵ “My lord, listen to me: a piece of land worth four hundred shekels of silver, what is that between you and me? Bury your dead.” // ¹⁶ Abraham listened to Ephron, and Abraham weighed out for Ephron the silver that he had named in the hearing of the Hittites, four hundred shekels of silver, according to the weights current among the merchants. ¹⁷ So the field of Ephron in Machpelah, which was to the east of Mamre, the field with the cave that was in it and all the trees that were in the field, throughout its whole area, was made over ¹⁸ to Abraham as a possession in the presence of the Hittites, before all who went in at the gate of his city. // ¹⁹ After this, Abraham buried Sarah his wife in the cave of the field of Machpelah east of Mamre (that is, Hebron) in the land of Canaan. ²⁰ The field and the cave that is in it were made over to Abraham as property for a burying place by the Hittites. As the story progresses, Abraham makes it clear that he does not want to accept a gift, but instead pay for it because he wants to never be indebted to any person or tribe of people for his success. His desire is that it is clear to everyone that it all came by God’s favor. So, by Abraham doing it the way he did, God gets the glory whenever we read the story, not a group of people who gifted him the cave. Abraham shows where his heart is by wanting to pay full price for the land. Additionally, by paying full price instead of accepting a gift, he makes sure that does not take advantage of the situation and possibly take advantage of Ephron’s good will. This also allows us see him honoring God during difficult times. By gathering as witnesses, the other Hittites witness the transaction, and thereby ensure that it is legitimate.

There is a final point here to be made in how we honor loved ones who die. There are ways that may not be wrong, but may not bring honor to God. It may not be popular to say, but in the cultural and traditional ways no matter what culture we come from, there are many traditions that honor a person, but do not point to and honor God. With false religious practices that are part of the culture here in Japan, they can even point away from the true God. We need to be careful in how we honor those who die whether saved or unsaved to always speak the truth. Of course truth can be said with love. The person without Christ according to God’s Word is not going to Heaven, but it may be better to point out that the loved one who passed away would want everyone who is still alive to know about Jesus. You want to honor friends and family with funeral practices of the culture here in Japan, but some of those practices are directly tied with worship of false gods in Buddhist rituals. We must honor God above family, but prayerfully consider which parts are religious in their very nature and which are simply cultural. But no matter what our cultural tradition is, our desire as believers in life and in death should be to use even our honoring of our loved ones in death to bring honor to Jesus Christ.

Abraham knew that. His faith gave him strength in grief and allowed him to seek to honor God when he could have taken advantage of circumstances. Like Abraham we live by faith, but trusting God and finding our hope in him – not only in life, but also in death. Let’s pray.